野田首相の大飯原発３、４号機再稼働発言に断固抗議し、全ての原発の永久停止を求める声明

野田佳彦首相は６月８日、首相官邸で記者会見し、福井県おおい町・関西電力大飯原発３、４号機について、「再稼働すべきだが私の判断だ」と表明した。これを受け、福井県原子力安全専門委員会は６月11日、「大飯原発電所３、４号機の安全性を確認した」とする報告書を福井県西川一誠知事に提出した。西川知事は、「しっかりと受け止めて、県議会とおおい町の意向を聞いて判断したい」と述べ、大飯原発３、４号機の再稼働は事実上決定した。

野田首相は「原発を止めたままでは日本の社会は立ちゆかない。関電管内が計画停電になれば、命の危険にさらされる人、働く場がなくなってしまう人もいる。国民生活を守る。私がよって立つ唯一絶対の判断の基軸だ」と、生活や経済への影響を避けるため、原発は電力需要期にかかわらず重要な電源との認識を示したのである。私たちＪＲ東海労は、大飯原発３、４号機再稼働と脱原発依存に反する政府の姿勢に断固抗議する。

野田首相は、大飯原発３、４号機について、「福島を襲ったような地震、津波が起きても事故防止できる」と、再稼働した場合の安全面を強調している。しかし、福島第一原発事故の原因究明はされておらず、危険な状態にさらされているのである。いくら首相が「福島を襲ったような地震・津波がきても事故を防止できる」と力説しても、大飯原発３、４号機の実施済みの対策は、必要最低限の内容で、防潮堤は2013年、大地震の際に作業をする免震重要棟やフィルター付きベントができるのは３年後、さらに専門家が「敷地内を走る軟弱な断層（破砕帯）が近くの活断層と連動して動けば地表がずれる可能性がある」と指摘しているなど、“安全”とは言える状態では全くないのである。

福島第一原発事故は、未だ収束の目処はたっていない。事故によって流出した放射性物質は、土壌、河川、海洋などの自然を破壊した。 生まれ育った家、土地を奪われ人、家族が離散させられた人など、人の暮らしを奪った。避難生活を強いられている人は11万人を越えているのである。

この福島第一原発事故から、私たちが学んだことは、核と人間、核と自然は相容れないということである。野田首相が、「 原発を止めたままでは日本の社会は立ちゆかない」と強調したとしても、人の命に勝るものはない。将来ある子供たちの未来を奪ってはならないのである。

ＪＲ東海労は、野田首相の大飯原発３、４号機再稼働発言の撤回を断固求める。ＪＲ東海労は反原発を掲げ、全ての原発の再稼働に反対する。そして、全ての原発の永久停止に向けて闘うものである。

2012年６月12日

ＪＲ東海労働組合